

# 第243回鳳雛講座 令和6年1月24日(水)

1月24日(水)、今年度最後となる8回目の鳳雛講座を行いました。講師は大館市立総合病院にお勤めの臨床工学技士でありDMAT隊員の菅原隼(すがわらじゅん)さんが務めてくださいました。前回同様、今回も約150名の生徒が参加しました。講話では臨床工学技士としての仕事内容や、元日に被災した石川県に同僚のDMAT隊員が派遣された際の状況等について詳しくお話しく下さいました。まさにタイムリーな講話内容だっただけに、参加した生徒たちは大変熱心に聞き入っていました。

現場で働く職業人から貴重なお話を聞くことができる、他校にはない一中の鳳雛講座。来年度も引き続き開催していく予定ですので、一中生にはぜひ、積極的に参加することで将来における選択肢を広げてほしいと思います。

## ○講話の内容

・臨床工学技士について…医療機器の専門医療職種(生命維持装置)など、医療機器のスペシャリスト「いのちのエンジニア」と呼ばれている。全国で働いている人は医療従事者の中でも少ない。市内でも10人いるかいないか…。日々新しい機械が生まれており、機器の管理だけではなく、使い方などチームに教育することも大事な仕事である。

・DMATについて…災害派遣医療チーム(災害発生時48時間以内に出動できる)

1995年1月の阪神淡路大震災の初期医療破綻の反省をきっかけに、災害関連死を防ぐために2005年に作られた。DMAT隊員になるには、DMAT指定医療機関・災害拠点病院に勤務することで、研修や訓練は1年を通して何度も行われ、地域ブロックごとで活動している。DMATでは自動待機の基準があり、震度7・大津波警報は全国のDMATが待機することになっている。今年の1月に起こった能登半島地震ではその日のうちに待機し、1月10日に10時間かけて石川県輪島市へ出発した。避難所の小学校でミーティングをし、スケジュールの管理などをおこなっていた。昨年秋田県記録的大雨の際にも出動している。

・働くということについて…

高校時代の部活動や怪我などの経験から医療の道に進みたいと思い、大学のオープンキャンパスに参加したところ、説明会での「歴史を自分でつくり出せる医療職」という言葉をきっかけに臨床工学技士の道を選んだ。

「勉強はしたくないけど、いい点数とりたい」「練習を休みたいが大会でいい成績を残したい」など、たくさんの壁があるかもしれない。今は、たくさんの経験を生かしていろんなことにチャレンジして、人の気持ちを聞くことも大事。変化に敏感になることが新しい発見につながるかもしれない。その気持ちが将来の職業につながっていると思う。

## ○結びに

DMAT隊員は迅速な判断力と高い救急処置技術、豊富な実務経験などのスキルが大切である。いつ何がやってくるかわからない。災害の経験や教訓をつないでいくことが、次の被害を防ぐことにつながる。

## ○生徒の感想から

・臨床工学技士は医療の機器を管理する仕事、DMATは災害で人々を救ってくれる仕事だということが分かった。

・責任感がある大切な仕事。毎日新しいことを学ぶ姿勢を大切にするという菅原さんの話を聞いて、日々の学習を大切にしていきたいと思った。

・臨床工学技士もDMATも、どちらも人の命を救うすごい仕事であることを知り、自分の将来の夢の選択肢にいれたいと思った。

・医療機器の大切さ、そしてDMATの仕事、影で活躍する仕事の重要性について改めて学ぶことができた。講話にあったように日々の変化に敏感に、そして自分自身も新しいものへの習得や日々の学習を心がけていきたいと思う。







## 世の中の臨床工学技士

**手術室業務**  
人工心臓・補助循環  
術中モニタリング  
機器保守管理

**高気圧酸素治療業務**  
操作・保守点検

**心血管カテーテル  
検査業務**  
検査・治療補助

### 臨床工学科

1. 院内医療機器の中央管理
2. 医療機器の保守点検・故障修理
3. 安全教育
4. 機器購入、運用、評価

**ICU業務**  
生命維持管理装置の  
操作・保守点検  
関連機器管理

**ペースメーカー業務  
アブレーション業務**  
検査・治療補助  
クリニック

**血液浄化業務**  
定期透析  
各種血液浄化療法

**臓器移植業務**  
血液浄化  
補助循環

**人工呼吸器業務**  
病棟ラウンド  
搬送介助

**内視鏡業務**  
検査治療補助  
関連機器管理

GDA'S MUNICIPAL GENERAL HOSPITAL





